

## 2018 年度標準発熱量改訂案 第 1 回検討会以降の変更点のご報告

拝啓 時下ますます御清祥のこととお慶び申し上げます。先日の第 1 回検討会では、2018 年度標準発熱量改訂案に対し多数のご意見を賜り誠に有難うございました。

前回の検討会以降、2018 年度標準発熱量改訂案の検討を進め、別添「資料 2\_標準発熱量改訂案.xlsx」の通り今次改訂案を作成いたしました。改訂案のうち、検討会後に追加調査となった事項、および検討会以降に見直した事項についてご報告いたします。

### 1. 検討会時点で「追加調査中」であった LNG, 都市ガスの取り扱い

追加調査の結果、輸入天然ガス（気化 LNG）を従来通り一つのエネルギー源として扱い、ガス事業者、電気事業者の加重平均値 39.26MJ/m<sup>3</sup>を標準発熱量として採用するのが妥当との結論に至りました。

この改訂案に対し、日本ガス協会殿・電気事業連合会殿双方の合意を賜りました。

検討会時点では「ガス事業者・電気事業者の使用する輸入天然ガスの発熱量が違う可能性がある」との観点から、両者を総合エネルギー統計にて分割して取り扱うことを検討する追加調査を行いました。しかし、調査結果を用いて発熱量の算定を行ったところ、ガス事業者と電気事業者間で発熱量の差はわずか（0.01%程度）であったため、総合エネルギー統計においてそれぞれを分割して取り扱う意義は薄いと考えられます。そのため、従来通り輸入天然ガスを単一のエネルギー源とし、更なる標準発熱量を用いて都市ガスの標準発熱量を算定することを改訂案といたします。

### 2. オイルコークス発熱量の追加調査

本年 10 月の「第 1 回エネルギー・工業プロセス分科会」の結果、オイルコークスの炭素排出係数を現行値据え置きとし、令和 2 年度の追加調査を経て算定することが決定しました。標準発熱量もこれに従い、本年度は現行値据え置き（33.29MJ/kg）、来年度の追加調査を経て改訂する方針です。

### 3. 一部エネルギー源の数値見直し

以下のエネルギー源に関し、本年 10 月の検討会以降、数値の見直しを行いました。

- 発電用 C 重油： 41.65→41.63[MJ/L] 電力調査統計の遡及改訂（2019 年 8 月）を反映。
- 電力（受電端投入熱量） 9.333→9.370 [MJ/kWh] 集計期間を他のエネルギー源と統一（2015～2017 年度→2013～2017 年度）。
- 発電用高炉ガス 3.340→3.451[MJ/kWh] 電力調査統計における「混合ガス」を算定対象にし、また電気事業者ではなくなった一部自家発電設備の消費分を加算。

今次改訂案は今回のご確認を経て、令和 2 年 1 月中に公示し、4 月の総合エネルギー統計（確報）に適用する予定です。ご多忙の折大変恐縮ではございますが、この改訂案についてご質問、ご意見がありましたら、令和 2 年 1 月 15 日（水）までに事務局までご連絡賜りますようお願い申し上げます。

敬具